

旧油田小学校利活用に係る報告書

令和4年（2022年）2月21日

周防大島町学校跡地施設利用検討委員会（旧油田小学校）

令和4年2月21日

周防大島町長 藤 本 淨 孝 様

周防大島町学校跡地施設利用検討委員会
(旧油田小学校)
委員長

旧油田小学校利活用に係る報告書

旧油田小学校利活用について、当委員会における検討の結果を報告します。

1 検討委員会の開催状況

- 第1回 日時：令和3年10月26日（火）9時30分から11時00分まで
場所：油田農村環境改善センター 多目的ホール
出席状況：欠席者なし
 - ・委嘱状交付
 - ・委員長・副委員長の選任
 - ・応募者からの事業説明及び質疑応答
 - ・意見集約
- 第2回 日時：令和3年12月20日（月）9時55分から10時25分まで
場所：油田農村環境改善センター 多目的ホール
出席状況：欠席者1名
 - ・報告書（案）の作成審議
- 第3回 日時：令和4年2月9日（水）10時00分から10時10分まで
場所：油田農村環境改善センター 多目的ホール
出席状況：欠席者4名
 - ・内定者からの申込者変更について検討

2 検討結果

(1) 総評

旧油田小学校の利活用について検討した結果、A者の農山漁村滞在型体験学習施設事業（廃校を農山漁村滞在型の体験学習施設として運営）は、実現性、継続性が低く、また、集客できるかわからない。B者の「廃校をリノベーションしたスモールオフィス」と「グ

ランピング施設」を組み合わせたワーケーション施設の新設・運営は、現実的であり、日本初の事業となり、画期的で地元が活性化する。

B者の申込者変更については、代表取締役は同氏が務め、事業計画等に変更がないため異議はない。

(2) 検討委員会における主な意見

① A者について

- 他の廃校舎にも申込みをしているが、事業計画から3箇所同時にできそうにない。
- 地域に協力してもらって、地域密着という話であったが、高齢化、人口減により地域の協力が難しい。
- A者の内容はどこでもやっている。
- 集客できるかわからない。

② B者について

- B者の方が現実的。この事業は日本初になる。
- 継続性に不安があるが、B者の方が良い。
- 画期的で地元が活性化し、町にとっても良い。